

老眼鏡

「幸福論」

谷内 純一

岩波書店からアラン、バートランド・ラッセル、ヒルテの「幸福論」が出版されていて、それぞれに深い洞察が示されています。

最近、世界の人々の幸福に対する考え方が二十一世紀以後の世界の運命を決しかねないと思うようになったので寸感を記してみます。

ヒルティは「幸福を希求する」という点では、万人に共通し、幸福の自身についての思想は「様でない」と述べていますが、これについては「しかり、そして否である」という感じがしています。幸福の自身が多様であるならばこれに越したことはありません。しかし、今「金こそすべて」という風潮が世界的に強まっております。この弊害は大きいと感じられるのです。

バートランド・ラッセルは「競争」の過熱も幸福への障害になると指摘しています。些細な差異で序列をつけ勝者のみに尊敬を払う現代の人生観は協力の重要性を欠落した思想で考え直して見る必要があるのではないのでしょうか。

「尊敬」の対象について、ラッセルはヨーロッパでは多様な尊敬の対象があるが、アメリカでは医師や弁護士に力をつけて大衆は熟知できないためお金を多く取る医師や弁護士を尊敬する。学者は企業に奉仕するものとしてあまり尊敬されていないと述べています。

またラッセルは「古代人は中庸をもって根本的な美德の一つと見なしていた。ロマンティズムとフランス革命の影響でこの考え方は多くの人間から見捨てられ激しい情熱が賛美されるようになった。バイロンの詩の主人公たちの情熱のように破壊的かつ反社会的情熱であったとしても、あつては、しかし古きよのほが明らかです。しかし古きよのほが明らかです。」と述べています。

私は中野孝次氏の「清貧の思想」を称揚するものではあ

りませんが、「賞金王」報道などにみられる多ければ多いほどよいとする幸福観は拝金主義につながり、環境破壊を招くものであり、修正すべきであると思っております。皆さんはどうお考えでしょうか。

旅のしおり

ウルル登頂記

渡辺 怜子

かねて誘われていたエアーズロック・オルガ岩峰ハイキングツアーに喜寿の記念に思い切つて参加することにしました。友人Nさんも引っぱり込んで山の会8名、富士国際旅行社の市村さんと9名のたびだ。八十？才のK先生も行かれるのだから年齢的不安は感じなかったが、ガイドブックによるとエアーズロックは先住民アボリジニの聖地であるので観光客気分では登るのは奨励しないことと高所恐怖症・心臓疾患のある人は特に要注意というのが気になってきた。

エアーズロック・オルガ岩群国立公園は、オーストラリアのほぼ中央に位置し、現在はアボリジニ語にもどつてウルル、カタ・ジュタ国立公園と呼ばれ、その名で世界遺産に登録されている。

前日シドニーから現地入りした我々はウルル周辺を車で一周、その時ウルルの巨大さもさる事ながら麓に点在するアボリジニの聖地に強心を惹かれた。文字を持たない彼らはその歴史や文化を神話として口承や岩肌に壁画として残している。そのガイドを聞きながらウルルの岩肌や壁画を見て、改めてウルルが自然と文化の複合遺産として登録されているのに納得した。それは無機質なウルルの岩肌が血の通つたものとして見えよきた不思議な時間だった。

ウルル登頂の日は早朝ホテル出発、サンライズ・ビューポイントで朝焼けに染まるウルルを見た後、登山口に移動、ゲートは閉めら

れたままで。

ウルルは地上部分348メートル、周囲約9キロメートルの世界第二位の巨大一枚岩だ。地上に表われているのはその3分の1から4分の1だという。その山頂から派生している尾根の一つに一直線に上まで鎖がかけてられている。当初いつも登り慣れている里山の約1・3倍の高さに、なんとかなるだろうと思つていたが、さすがにしゅんとなった。

ウルル登山には厳しい条件がある。雨の日や風の強い日、気温が36度以上の予報の出た日、アボリジニの文化的理由や儀式のある日など：七つの条件の一つでも抵触すれば登山は禁止される。昨日は頂上付近で風が強くと登山禁止だった。登頂にそなえて少し離れたカルチュラルセンターにトイレを借りに行く。出て来たらパラパラと十人位の人々が登っている。やつた！と飛び上がる。登山口まで引き返すとまるで蟻の行列さながらに鎖に取りついたり人々の列が伸びていく。我々も後れじと登り始める。6時50分。しつかりと支柱に取り付けられた鎖は固定されているだけに登り易いと思つた。しかし『たかが348メートル、されど348メートル』最高斜度46度のウルルは半端じゃなかった。いつか健脚組と足弱組に分かれる。

(私は最後尾)半分程登った所で新婚さんらしい日本人の女性が下り方が解らないと半泣きになっている。5メートルばかり上で新郎が途方にくれた様子で見守っている。登りの厳しさに引き返そうと後ろ向いた途端、あまりの高さと視界の広さにパニックになったようだ。市村さんが後ろ向きに鎖を伝つて下りなさいと指示して登って行った。女性はどうやって後ろ向きになればいいのですかと尚もベソをかいている。鎖にかまつて少しづつ向きを変

えなさい。前が見えなくて心配でしょうが一番安全な下り方ですよ。というとうんと肯いていた。帰りにはいなかったのだから下りたのだらう。稜線までの鎖道が登りの3分の1、後は少しアップダウンのある平坦な道と聞いていた。歩き始めてみると一見平坦に見える山頂稜線は太古の昔海だった岩層が造山運動や地殻変動を経て地表に姿を現わし、以後の浸食風化に耐えて残つたものだからか岩の表面は多くの線がはしつている。その線の一つ一つはせいぜい3メートルから5メートル。しかし鎖も梯子もなく素手で指先・爪先を使って上り下りするしかない。よじ登ったり、ずり落ちたり結構ハードだった。山頂らしきものがほぼ水平線上に見えているのになかなか行きつかない。市村さんにフォローされながら山頂に立つた時の感激はひとしおだった。山頂には日本人が多くK先生が着くと一斉に拍手で迎えてくれた。頂上には方向盤を兼ねたそれを示すプレートが置かれていた。その横に立つて360度の大パノラマを満喫する。西にカタ・ジュタの岩峰群、東にマウン・コナーが見える以外一面の半砂漠の平原が地平線まで続く。何よりも山頂の僅かな水溜りに5センチメートル位の緑色の甲えびが何匹も泳いでいるのを見た時、苛酷な環境で生き抜く自然界の逞しさに触れた思いがした。気温が高くならないうちに慌しく下山し始める。登りもきつかったけれど下りもハードだった。登ってくる人はいない。もうゲートが閉まったのだ。ようやく下まで降りた時膝はガタガタだった。9時20分。振り返ってウルルを見た時、この山に登らせて頂いたというのが実感だった。ノーザンテリトリー五日間の滞在中登れたのはこの時だけだったようだ。

県外便り

八ヶ岳の麓から

笹岡 貢典

日常の暮らしは変化のないもので、周りの状況などをレポートします。

十一月下旬、八ヶ岳南麓の標高七〇〇〜一〇〇〇メートル付近は落葉松と椋(くぬぎ)などの黄葉が美しい一瞬です。山梨県の北部に位置する八町村が合併して、人口約五万人の北杜市が誕生して三年になります。予想通り旧村民からは、合併してよかったことではないという声がかかります。ただ旧町村がそれぞれ独自に持っていた体育館や図書館などの文化施設・教育センターや郷土資料館・温泉浴場などが気軽に利用できますが、市としては維持管理費が膨大となり、指定管理者になつてい

ます。しかし、旧町村の行事や催しは活発で、市内八図書館の各種講座や朗読、おはなし会を始め、体験・イベント・映画会・野外学習・料理講習・音楽会などが後期だけで九四もあり、それぞれに市民が参加しています。地域的なものとしては、成人乗馬教室なども行われています。

そして八ヶ岳南麓には、千葉・東京・神奈川からの転住者も多く、古い上着を着たままのような封建的な風土に新住民と呼ばれる人たちが新しい価値観を持ち込んで、そ

れが少しずつ浸透しつつあります。具体例では、県内での9条の会の多さ、地域革新懇の約半数が北部にあるなどです。別荘も割安な土地(別荘地は坪四〜六万)のため、中級別荘地が多く、小淵沢町は別荘住宅が永住を上まわっているそうです。

自然環境は大型開発が少ないため問題は起きていませんが、サル・イノシシ・シカなどの農作物への被害が多く、市議会でも対策が論議されています。冬場には私の家の周辺にもシカの群れが現れたりします。一〜二月の寒い時にはマイナス15度にもなりま

す。畑は完全に凍り、ツルハシで打つてもカチンと跳ね返り、凍土となっています。したがって、大根などは雪囲いが行われています。季節の移り方が早く、白菜・大根などの播種は一週間の遅れがその後の生長にも影響します。私も、地域の新住民たちと「農のいろは塾」でこの地方の特徴を教えてもらっています。晩霜は郭公が初鳴きをする目安だとか、八ヶ岳の雪形で判断するなどです。ではまたの機会にレポートします。



ある冬の日、居酒屋 高教組

「はあ〜」
ゆう子ママがため息をついた。「今日もお客さん(組合員)来んねえ...」

ものを紹介する。「フェルマーの最終定理」である。内容が膨大で意を尽くすことはできないが紹介してみる。

標題の定理は「 n が2より大なるとき、 $x^n + y^n = z^n$ の整数解はない」という命題である。

秦泉寺残月日記
坪井 幹之

る。 n が2のときは整数解は34415など無数にある。かのピタゴラスの定理の式である。上記の命題を考え出したのは十七世紀のフランス人フェルマーである。彼はプロではなかったが数学の天才で

「そうですね、今日ここに来たのは業者さん(運送会社の人やコピー会社の人)と元・オーナーや元・ママさん(高退協の先生たち)とわたしらあのつけの取立てに来た「せっちちゃん(現・革新懇事務局長)だけですねえ。このままやとこのお店、つぶれるかも」と、ちいママのわたし。今日はただでさえ、店長と副店長(谷村書記長と米満副委員長)が東京の「居酒屋総本店 全教」へ呼び出され出張中で、オーナー(倉橋委員長)は他の店周りもあり、午前中しかここへは寄れないときている。ほんとに寂しい冬の晩...

わたし「うちの従業員(執行委員)でさえ、ここへあんまり出て来れんなつちゆうですもんねえ...」
ゆう子ママ「そうやねえ...でも仕方ないで、さわちゃん。みんなあ「レストラン 高校」や「割烹 障害児学校」とのダブルワークやし、ここはお給料も出せんき、ゆうたらボランティアで来てもらいゆうがやもん」

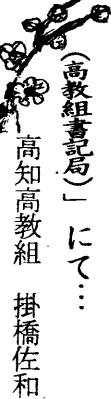
わたし「それに、わたしも去年まで『割烹 障害児学校』におりましたけど、たった5年前と比べても、なんでかしらん、めちやくちや忙しゅうなつちゆうがですよ。管理も厳しゅうなつたし、来年から基準もようわからん評価でもって、みんなあの昇給に差をつけるゆうがですよ!もう、あつたまにくる...!」
ゆう子ママ「ほんと、ほんと!それにしてもなんとか

ならんろうかねえ...さわちゃん、今日は早いけど、もう店じまいしようか」
わたし「そうした方がいいかもしれないですねえ...」
そうこうしていると...

「こんばんは...」
今日、一人目のお客さん!うちの客層の中では最若手、早く正社員になりたいと思っっているけど、この不景気(採用状況の厳しさ)で臨時で働くことを余儀なくされている青年:疲れているのか、ちよつと元気がないのが気になるが...

青年「なんか寄りたくなって...ポナス前であんまりお金持っていないんですけど...」
ゆう子ママ「かまん、かまん、支払いはある時払いの催促なし、出世払いでかまんきね」
続いて、『割烹 障害児学校』での勤務を済ませた従業員が、元・従業員と一緒にやってきた。

元・従業員「ちよつと体調崩しちよつたんやけど、だいぶ元気になったき、またみんなで飲みに行きましよう」
ゆう子ママ「うん、行こう、行こう!」
わたし「いつにします?」
...さつきまであんなに落ちこんでいたのに、なんだかとても元気が出てきた。やつぱり仲間っていいもんですね...愚痴ってばかりじゃだめ、なんとかお客さんを増やす工夫を積極的にしていかなとな...あらためて考えた、ある冬の日なのでした...



(高教組書記局)にて... 高知高教組 掛橋佐和

最終的には二人の日本人数学者による「谷山・志村予想」の証明にかかっていた。この難題を乗り越えて証明は完成したかのように見えたが、その後の精密な検討でひとつの瑕疵が見つかった。その後、十四カ月間の苦闘の末、遂に証明は完成する。素晴らしい結末である。

この証明の内容は、数学の分野で最も抽象的だ言われる「数論」の最先端の論理で構成されているので、とても私達には理解できるものではない。しかし、新潮文庫のこの本はよく出来ていて、小説のように面白い。サイモン・シンと青木薫の名著、名訳である。一読をお薦めする。



相撲ミニ知識 (八十)

林 勤

相撲協会八十年を振り返る

四、昭和三十一年(三十五年

※この五年間は、栃錦、若乃

花の「若全盛時代」であり、

その次に来る柏戸、大鵬の「柏

鵬時代」幕明けの時代でもあ

る。

昭和三十一年

○五月、大関若ノ花初優勝

若ノ花人気沸騰

○富樫後の横綱柏戸幕下優

勝。

○七月、納谷(後の横綱大鵬)

入門。

昭和三十一年

○五月、時津風(元横綱双葉

山)親方理事長に就任。

○七月、大関が三場所連続負

け越した場合は陥落すること

に改正、但し、実施は昭和三十

三年一月から(四十四年七月

月から二場所連続に改正)。

○八月、両国国技館返還され

る。(昭和二十年十一月に占領

軍に接収されていた)

○九月、相撲茶屋名を廃止し、

一号から二十号とする。相撲

サービス株式会社を設立。

○十月、相撲教習所開設新弟

子の教育機関、六ヶ月、実技

相撲史など)

○十一月、初の九州場所開催

年五場所となる。優勝は前頭

十四枚目玉乃海十五戦全勝。

俳句

十月二十日 土曜

春野町秋出、

三十四番札所 種間寺

唐土の五穀ゆかりの寺の秋

聞耳を立てては椎の実を拾う

吉本 仲秋

柿落葉井筋豊かに流れをり

生姜掘る構えコンテナ

どしどし積み

中内英明

寺裏に風を呼びをり敗れ荷

底を行く流れも見えて水の秋

小笠原 さちを

一筋の兼山疎水柿の秋

行く秋の疎水に沿へる遍路道

中内 みち代

昭和三十三年

○一月、横綱審議委員会が「横

綱推薦の内規」を発表。

○三月、若乃花新横綱に昇進

六場所制となる。

昭和三十四年

○本年の優勝は、若乃花三回

栃錦二回、若羽黒一回で、栃

若時代全盛、朝夕後の朝潮

新横綱となる(五月場所)

昭和三十五年

○一月、大鵬新入幕 初日か

ら十一連勝。十二日目に小

結・柏戸に敗れたが、これが

長く対戦する柏鵬戦の始まり

である。

○三月、史上初、全勝横綱同

士 栃錦、若乃花共に十四戦全

勝で対戦の千秋楽決戦。寄り

切つて若乃花の勝

○十一月、一月に新入幕の関

脇大鵬が初優勝。(一月場所の

番付編成会議で大関昇進決定

二十才六ヶ月)

※大鵬は四十六年五月場所に

引退するまで、幕内在位十二

年のすべての年に優勝、通算

三十二回の優勝を飾っている。

高知県知事選挙への

カンパの御礼

革新県民連合が推した

高退協会員である國松勝

候補は、当選を勝ち取る

ことが出来ず残念な結果

になりました。

ご支援、ご支持をいた

だくとともに、多大なカ

ンパをいただき有り難う

ございました。

県民の苦しみ、貧困と

格差を広げ、老人を切り

捨てる今の政治の大本に

対して、私たちは要求の

実現に向けて一層努力し、

希望ある政治をめざし引

きつづき努力していきます。

高退協後援会

爽やかにおん僧曰く委細了

種間寺の寺領に秋の種物屋

合田 青幹

新年は「子(ね)」歳(どし)

榊原 忠彦

皆既月食・仲秋の名月、月か

らの「地球の出入り」と、長

寿うれしむ

【私の趣味】

パソコンで

ビデオ編集

山本圭一

外国旅行の未編集のテープ

がたまる。パソコンでの編

集を考える。パソコンでの

編集の難しさを耳にし躊躇す

る。そんな時ビデオ雑誌で

パソコンの編集講座を知る。

応募し採用される。会場は

新大阪駅の近くのビルで参加

者は私一人、係りの人が説明

し、私に操作させてくれた。

いとも簡単にできる、これな

ら私にも編集できると自信を

持った。このパソコンとほ

ぼ同じものを組んでもらった。

編集の楽しみ(?)が始ま

った。2週間の外国旅行で

ビデオ撮影は、2、3時間。

このテープをパソコンに取り

込む作業から始まる。これ

を大胆にカットし40分、5

0分に縮める。単純で手間

のかかる作業だが、この取捨

選択が作品を決定付ける。

この後の作業はタイトル、場

面転換、音楽等パソコンのも

つとも得意とするところであ

る。たとえばタイトル、文

字の大きさ、字体、色、タイ

トルの出し方、右から出て左

に消えるなど自由自在、しか

も瞬時にパソコンのモニター

で確認でき何度でもやり直し

ができるのである。場面転

換、音楽の挿入に關しても同

様簡単に結果を確認してやり

直すことがパソコン編集の長

所ではないだろうか。

活動日誌

十一月

三日 憲法集会

六日 事務局会

八日 親睦旅行

九日 四国ブロック

十二日 交流会

十三日 知事選投票

二十五日

十二月

五日 事務局会

五日 望年会

五日 芸能発表会

九日 作品展

九日 平和の集い

私の心に強く残る映画の一

場面を思い出す。「無法松

の一生」であったと思う。三

船敏郎演じる車夫の車輪の回

転と高峰秀子の一人息子の児

童から少年に成長する姿が二

重写しになる場面である。

車輪の回転が時の経過をうま

く表現していた。その後何

年かして偶然に映画雑誌でそ

のカメラマンの苦労話を読ん

だ。フィルムを逆転して二

重写ししていた。

この手法が適当に撮影した

ビデオフィルムから自由にあ

とで編集できるパソコンの底

知れぬ力と技術の進歩を感じ

る。わたしのパソコンも五

年以上の化石的なものになっ

た。二〇一一年には、ハイ

ビジョンテレビになりビデオ

カメラもハイビジョンカメラ

が主流になりつつある。い

わば百パーセント完成された

大人のオモチャこの完成度の

高さに危惧を感じる。上記

のカメラマンの工夫、この完

成度では生まれられないではな

いか、未完成の道具で、工夫

と創造が生まれるのではない

だろうか。

日・韓は戦後史も敵(きび)

し、朋子と朴、翻弄されし痛

切の愛

(NHK連続ドラマ「海峡」で

ジェームス三木が訴える)

希望

山本 晶子

柚子の酢にとっぷり浸しし鯖

の身を 棒ずしにするを今日

習いたり

鯖ずしを作りて初春寿(こと

ほ)が 脂(あぶら)の乗

りし旨(うま)き鯖買いて

希望の内に未来ありけり暗き

世の 明るきを見て更に生き

なん

希望をめくる

叶岡 淑子

釈放の声援今も耳にあり 半

世紀前大みそか夜

(「団交事件」五十人不当逮捕)

幾山河越え来つるかな なお

続く遙かなる道この道を行く

みどり児の瞳かがやくカレン

ダー 二〇〇八年の希望をめ

くる